

タイトル「**2021年度危機管理学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4614		
科目名	危機管理特殊研究 4		
担当教員	茂田 忠良		
対象学年	4年	開講学期	後期
曜日・時限	金 3		
講義室	1004	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E [学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し 利用することができる。 DP4-F [探究力・課題解決力] 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答える ための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP4-I [理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP5-J [創造的挑戦力・達成力] コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。 DP6-K [表現力・対話力] 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現 し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7-L [協働力・牽引力] 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場 や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP8-M [省察力] 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E1 学識と専門技能（10%） F1 探求と論拠（20%） I1 理解・分析と読解（10%） J1 継続的学修基盤（10%） K1 ライティング・コミュニケーション（10%） K2 オーラル・コミュニケーション（15%） L1 チームワーク（15%） M1 統合的・応用的学修（10%）		
教員の実務経験	警察庁採用 I 種（現総合職）職員として34年余の警察官や公務員としての実務経験を有し、その中で、県警察本部長などの立場で様々な危機的状況、謂わば「修羅場」を経験してきました。そこで、警察官を職業の選択肢としている学生を念頭に、体験を踏まえて、危機的状況における対処で最も重要な「即座の判断力」を養成するべく、教授します。（第12、13、14、15回）		
成績ターゲット区分	■ 成績ターゲット：能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		

科目概要・キーワード	危機管理に関する専門的な問題解決のために必要な知識やスキルを身に付けるための指導を行います。学生個人のキャリア形成にもつながるよう、学生自身が危機管理に関する具体的な業務、資格などに関する専門的な研究を行い、実務教員が中心となり実践的な指導を行います。危機管理に関する知識や教養を養うだけでなく危機管理において必須となるコーディネート、マネジメントに必要な調整能力を身に付けることを目標とします。ここでは、各自の研究テーマで研究計画に基づいたレポートを執筆し、完成させるための論文指導を行います。 授業形式は演習形式により行います。なお、授業を補完・代替するためオンライン授業（ライブ型）を取り入れます。 ■キーワード： 危機対処、日本、中国、世界						
授業の趣旨	■ 副題 警察官ほか日本人として必要な「人間の軸」づくり ～日本と世界（特に中国）を理解する～ ■ 授業の目的 警察という危機管理業務に従事するに当り必要とする危機管理及び警察業務に関連する幅広い知識と教養を養う。同時に、読書力、作文力、会議での発言力を身に付ける。 ■ 授業のポイント 危機管理や警察活動にとって重要な日本と世界に対する基本認識に関連する課題本や配布資料を事前に読んで、感想文を提出すると共に討論を行う。卒業研究を行い発表する。						
総合到達目標	■ 危機対処及び警察業務に必要な幅広い知識と教養を養う。 ・ 危機対処業務が遂行されることとなる近代民主主義社会の特徴（民主主義思想のイデオロギー性）について説明できるようになる。 ・ 危機対処業務が遂行されることとなる現代日本社会の他の近代民主主義国家の特異点（占領下検閲によって創設された言語空間の特質）を説明できるようになる。 ・ 危機対処業務が遂行されることとなる日本社会の特質（皇室、日本文明の特徴など）について説明できるようになる。 ・ 日本にとって極めて重要な国である中国の社会体質（共産党独裁、中華思想、民族主義など）を説明できるようになる。 ■ 読書力、作文力、会議での発言力を身に付ける。						
成績評価方法	■ レポート（感想文）4回（33%）：適用ルーブリックE1・F1・J1・I1・K1・M1 （評価の観点）課題本や配布資料の読書を基に、論理的で明晰な文章が書けているか、を評価します。 （フィードバック方法）その都度添削して返還します。 ■ 授業参加度（発表、発言等）（67%）：適用ルーブリックE1・F1・I1・J1・K2・L1・M1 （評価の観点）課題本や配布資料を読んだ上で、自分の意見を積極的・論理的に発言出来ているか、また、卒業研究のプレゼンが論理的且つ明晰にできているか、を評価します。また、レポート非提出回は短文（感想文）の事前提出を求め、演習準備の状態を確認します。 （フィードバック方法）授業のその場で、フィードバックします。						
履修条件	特にありません。						
履修上の注意点							
授業内容	各回の演習の実際については、研究生の能力、要望、研究の進捗等を勘案して、柔軟に対応します。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ 卒業研究の検討 ②授業概要 卒業研究の方向性について発表し、他のメンバーからの質疑やコメントを通じて、研究についての考察を深め、研究の段取りの妥当性について展望を持てるようになる。 （E1・F1・I1・J1・K2・L1・M1） ③予習（210分） 卒業研究の課題と方法について検討しておく。 ④復習（30分） 授業での検討を踏まえて、卒業研究の課題と方法について方向性を決定する。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ 長谷川三千子著『民主主義とは何なのか』（1）第1～2章 ②授業内容 本書について、全員でそれぞれ論点に沿って所見を述べ合う。（E1・F1・I1・J1・K2・L1・M1） ③予習（210分） 本書前半を読んで感想をまとめる。 ④復習（30分） </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ 卒業研究の検討 ②授業概要 卒業研究の方向性について発表し、他のメンバーからの質疑やコメントを通じて、研究についての考察を深め、研究の段取りの妥当性について展望を持てるようになる。 （E1・F1・I1・J1・K2・L1・M1） ③予習（210分） 卒業研究の課題と方法について検討しておく。 ④復習（30分） 授業での検討を踏まえて、卒業研究の課題と方法について方向性を決定する。	2	①授業テーマ 長谷川三千子著『民主主義とは何なのか』（1）第1～2章 ②授業内容 本書について、全員でそれぞれ論点に沿って所見を述べ合う。（E1・F1・I1・J1・K2・L1・M1） ③予習（210分） 本書前半を読んで感想をまとめる。 ④復習（30分）
回	内容						
1	①授業テーマ 卒業研究の検討 ②授業概要 卒業研究の方向性について発表し、他のメンバーからの質疑やコメントを通じて、研究についての考察を深め、研究の段取りの妥当性について展望を持てるようになる。 （E1・F1・I1・J1・K2・L1・M1） ③予習（210分） 卒業研究の課題と方法について検討しておく。 ④復習（30分） 授業での検討を踏まえて、卒業研究の課題と方法について方向性を決定する。						
2	①授業テーマ 長谷川三千子著『民主主義とは何なのか』（1）第1～2章 ②授業内容 本書について、全員でそれぞれ論点に沿って所見を述べ合う。（E1・F1・I1・J1・K2・L1・M1） ③予習（210分） 本書前半を読んで感想をまとめる。 ④復習（30分）						

	授業を振り返り、授業の内、自分で重要であると考えポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。
3	①授業テーマ 長谷川三千子著『民主主義とは何なのか』（2）第3章～結語 ②授業内容 本書について、全員でそれぞれ論点に沿って所見を述べ合う。 前回授業と合わせて、「近代民主主義」のイデオロギー性と利点欠点について説明できるようにする。（E1・F1・I1・J1・K1・K2・L1・M1） ③予習（210分） 本書後半を読んで感想をまとめる。本書全体についてレポート（感想文）を作成して事前にClassroomで提出する。 ④復習（30分） 授業を振り返り、授業の内、自分で重要であると考えポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。
4	①授業テーマ 中西輝政著『日本人としてこれだけは知っておきたいこと』（1）第1～2章 ②授業内容 本書について、全員でそれぞれ論点に沿って所見を述べ合う。「平和憲法」「高度経済成長」「日米戦争」等について中西氏の見解を説明できるようにする。（E1・F1・I1・J1・K2・L1・M1） ③予習（210分） 本書第1～2章を読んで感想をまとめる。 ④復習（30分） 授業を振り返り、授業の内、自分で重要であると考えポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。
5	①授業テーマ 中西輝政著『日本人としてこれだけは知っておきたいこと』（2）第3～4章 ②授業内容 本書について、全員でそれぞれ論点に沿って所見を述べ合う。「皇室」「日本文明」について中西氏の見解を説明できるようにする。（E1・F1・I1・J1・K1・K2・L1・M1） ③予習（210分） 本書第1～2章を読んで、感想をまとめる。本書全体についてレポート（感想文）を作成して当日提出する。 ④復習（30分） 授業を振り返り、授業の内、自分で重要であると考えポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。
6	①授業テーマ 憲法論と国家論 ②授業内容 事前配布資料について、全員でそれぞれ論点に沿って所見を述べ合う。憲法について国家論を基礎にして議論できるようにする。（E1・F1・I1・J1・K2・L1・M1） ③予習（210分） 事前配布資料を読んで感想をまとめ、レポート（感想文）を作成して事前にClassroomで提出する。 ④復習（30分） 授業を振り返り、授業の内、自分で重要であると考えポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。 事前配布資料～百地章講演録『日本の国柄と憲法』八木秀次講演録『国家について考える』
7	①授業テーマ 江藤淳著『閉ざされた言語空間』（1）第二部第1～4章 ②授業内容 本書について、全員でそれぞれ論点に沿って所見を述べ合う。（E1・F1・I1・J1・K2・L1・M1） ③予習（210分） 本書第二部第1～4章を読んで感想をまとめる。 ④復習（30分） 授業を振り返り、授業の内、自分で重要であると考えポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。
8	①授業テーマ 江藤淳著『閉ざされた言語空間』（2）第二部第5～10章

	②授業内容 本書について、全員でそれぞれ論点に沿って所見を述べ合う。 前回授業と合わせて、戦後占領下の検閲が現在の言語空間・思想空間に与えた影響について説明できるようになる。(E1・F1・I1・J1・K1・K2・L1・M1) ③予習(210分) 本書第二部第5～10章を読んで感想をまとめる。第二部全体についてレポート(感想文)を作成して事前にClassroomで提出する。 ④復習(30分) 授業を振り返り、授業の内、自分で重要であると考えポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。
9	①授業テーマ 辣椒著『嘘つき中国共産党』 ②授業内容 本書について、全員でそれぞれ論点に沿って所見を述べ合う。中国共産党の全体主義的体質について説明できるようになる。(E1・F1・I1・J1・K1・K2・L1・M1) ③予習(210分) 本書を読んで感想をまとめる。 ④復習(30分) 授業を振り返り、授業の内、自分で重要であると考えポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。
10	①授業テーマ 平野聡著『「反日」中国の文明史』(1)序章～第4章 ②授業内容 本書について、全員でそれぞれ論点に沿って所見を述べ合う。(E1・F1・I1・J1・K2・L1・M1) ③予習(210分) 本書第1～4章を読んで感想をまとめる。 ④復習(30分) 授業を振り返り、授業の内、自分で重要であると考えポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。
11	①授業テーマ 平野聡著『「反日」中国の文明史』(2)第5～終章 ②授業内容 本書について、全員でそれぞれ論点に沿って所見を述べ合う。 前回授業と合わせて、華夷秩序と近代国際関係、共産主義、民族主義などの視点から中国文明について議論できるようになる。(E1・F1・I1・J1・K1・K2・L1・M1) ③予習(210分) 本書第5～終章を読んで感想をまとめ、本書全体についてレポート(感想文)を作成して事前にClassroomで提出する。 ④復習(30分) 授業を振り返り、授業の内、自分で重要であると考えポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。
12	①授業テーマ 卒業研究のプレゼンと討議(1) ②授業概要 各研究生が卒業研究についてプレゼンテーションを行ない、それについて全員で議論する。(E1・F1・I1・J1・K2・L1・M1) 担当教員の実務経験を踏まえて、講評指導をします。 ③予習(210分) 自分の研究課題についてプレゼンできるように準備する。 ④復習(30分) 他の研究生のプレゼン及び討議も含め、議論を研究内容に反映する。
13	①授業テーマ 卒業研究のプレゼンと討議(2) ②授業概要 各研究生が卒業研究についてプレゼンテーションを行ない、それについて全員で議論する。(E1・F1・I1・J1・K2・L1・M1) 担当教員の実務経験を踏まえて、講評指導をします。 ③予習(210分) 自分の研究課題についてプレゼンできるように準備する。 ④復習(30分) 他の研究生のプレゼン及び討議も含め、議論を研究内容に反映する。

	14 ①授業テーマ 卒業研究のプレゼンと討議（3） ②授業概要 各研究生が卒業研究についてプレゼンテーションを行ない、それについて全員で議論する。（E1・F1・I1・J1・K2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて、講評指導をします。 ③予習（210分） 自分の研究課題についてプレゼンできるように準備する。 ④復習（30分） 他の研究生のプレゼン及び討議も含め、議論を研究内容に反映する。
	15 ①授業テーマ 卒業研究のプレゼンと討議（4） ②授業概要 各研究生が卒業研究についてプレゼンテーションを行ない、それについて全員で議論する。（E1・F1・I1・J1・K2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて、講評指導をします。 ③予習（210分） 自分の研究課題についてプレゼンできるように準備する。 ④復習（30分） 他の研究生のプレゼン及び討議も含め、議論を研究内容に反映する。
関連科目	危機管理基礎演習Ⅱ（RMGT2602）・危機管理特殊研究1（RMGT4541）・危機管理特殊研究2（RMGT4542）・危機管理特殊研究3（RMGT4543） 危機対処に有益な世界観を知るために、インテリジェンス論1（RMGT3527）・インテリジェンス論2（RMGT3534）とも関連します。
教科書	（下記の教科書は、図書館に収蔵されている。） ・長谷川三千子著『民主主義とは何なのか』（文春新書、2001年） ・江藤淳著『閉ざされた言語空間』（文春文庫、1994年） ・中西輝政著『日本人としてこれだけは知っておきたいこと』（PHP新書、2006年） ・辣椒著『嘘つき中国共産党』（新潮社、2017年） ・平野聡著『「反日」中国の文明史』（ちくま新書、2014年）
参考書・参考URL	・SCAP, "Political Reorientation of Japan"
連絡先・オフィスアワー	■ 連絡先 開講時に告知します。 ■ オフィスアワー 水曜3限。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントをとることにより研究室で対応します。
研究比率	■ 危機管理領域との対応 災害マネジメント10%；パブリックセキュリティ70%；グローバルセキュリティ10%；情報セキュリティ10% ■ 危機管理と法学のバランス 危機管理学95%；法学5%

